

(Lonely Night Gathering)

やのめしの夜の句会報 第249&第250号

(2025.11.23-2025.12.7)



参加者: クイスケ、カオルル、しまねいへへ、中村マコト、
鈴木正口、藤岡あや、モロッコひろみ、猫屋敷メグル、堀川
朽葉、石原とへき、石川聰、西脇伴貴、砂のよつな、蔭一郎、
安藤 蜜豆、空野つみき、水の眼り、中川 晶子、都まな、
Nichtraucherchen' 山田真佐明、西沢葉火、ひいひぎ、笛地静
恵、真口(ましろ)といいます。、佐井杜有、ひいひぎ、
Dronic' 汐田大輝、もりや、青海波、銀藏、なまねい、「しる
とむ 塩の司厨長、三明十種、西沢葉火、美蟲角(ひちゅう
かく)、休職さん(仮)、江口ちかる、涼、宮坂変哲、気ま
ぐれやん、アリタ別館、胡椒黒、akao 不思議な話のアイン、
何ひなぐ短歌、雷(らい)、あづみのマルコ、夜ボエム寄る?、
水彩、季川詩音、片羽 雲雀、砂原妙々、天然石アクセサリ
ーkiki's、まどけい、霧雨魔理沙、ぼーけるいど、えみ、非
常口ミシト、岡村知昭、東、いは、Haiku Lens' ぐんばい、「
輪井ゆう、雨声、鰐語缶太郎、ゆずる、下野みかもは通販準
備中、あしあい、半岬チロ、リコシエ、小沢史、赤ちゃん、
aoaoi' 松本清展、月波与生(七六名)

◆川柳・俳句

韻を踏む金魚の後ろ足が折れる クイスケ
頭痛にも眠れぬ夜があるという クイスケ
それとなく炎をまとう藤井風 クイスケ
クチバシの隙間を勝手口にした 山田真佐明

垂れ乳は朝もやに泣く鶏を見て 山田真佐明

朝刊の運び屋だから夢を見る 山田真佐明

小夜時雨あなたに逢いたいと思う 真白

なにもかもおにぎりにして狂いたい 真白

少年の巢にネグリジェを詰めていく 空野つみき

うつとりとドリンクバーになってゆく 空野つみき

地図帳のゆめまぼろしを塗り潰す 空野つみき

眠ろうか、ベロアは人のいない国 空野つみき

起きなさい鼻毛を青くしてあげる 岡村知昭

回送と知りつつ追えれば12月 しろとも

最期までプラスチックのお父さん 宮坂変哲

古井戸の迷子センター 都まなつ

不幸はブルーハワイ味 都まなつ

幾度寝の二人三脚 都まなつ

ひつつき虫のばかな海 都まなつ

ながればし兼メロンパン 都まなつ

白旗と同じ意識を持つて葱 しまねこくん

二周目は鳥が渡つてある句集 しまねこくん

さしあたり柿の落ち葉をコレクション 中川 晃子

デフォルトは二次元なのか虫の域 汐田大輝

お嬢さん類語辞典に似ているね 汐田大輝

頭角を現わすまでは蛇苺 汐田大輝

玉ねぎをむしっていくと避雷針 汐田大輝

ぬるま湯に浸かつたままで跳んでみろ 汐田大輝

道徳の時間になると虫の息 汐田大輝

擬人化と言われ不服な枝でいる 雷

図書館に二回返した本を買う 雷

新しい更地と通じ合う耳だ 雷

首を切りなさい配信をしなさい アイン

鼻から牛乳が出るまでが夕日 アイン

目隠しをされて雛は連座制 江口ちかる

目を吸つてくちびる吸つて鰯のお頭 休職さん (仮)
わたしだけさしあたりをもつてない 蔭一郎

眼帯の反対の目に雪模様 蔭一郎

いちようおちばいちようおちば両手をあげなさい 蔭一郎

さみしくて針千本の針を抜く 蔭一郎

歳末やヨドバシカメラに並ぶトランク 堀川朽葉

冬もみぢ婦人警官また怖し 堀川朽葉

いいともに呼んでもらえなかつた人々 もりや

徒歩三十分かかる場所のファーリー 猫屋敷メグル

残り香にbitしか残せない 猫屋敷メグル

眠れないたびに鉢植えを並べる 猫屋敷メグル

瞳の中で反復横跳び 猫屋敷メグル

意味という月見草だけ食べている 猫屋敷メグル

肉が好き。ボインセチアの赤が好き カオルル

寒波来る夜を少年探偵団 カオルル

すきやきは初めてといふ腐女子かな 胡椒黒

使い捨て懐炉の落ちてゐる奈落 カオルル

右利きのグローブだけの児童館 中村 マコト

本当にほんとうの小指と小指

胡椒黒

窓を拭く、黒すぎて興奮する、 胡椒黒

火星なかんばせ苛性ソーダ間一髪な一揆だそうだ 石原と

つき

知恵の輪」の九官鳥は帶に短し精靈流し 石原とつき

吊革が沼の底までおりてくる 小沢史

亡き国のブテラノドンなら安いのか 鮎詰缶太郎

狼煙だつたんだね芋が焼けたけど 西沢葉火

空つぼの空をラグビーボールかな カオルル

柿落葉カタストロフィの可燃性 三明十種

税重し算用果てぬ年の暮 鈴木正巳

線画の嵐だった中島みゆき 西脇祥貴

*

さよならを重ね着してくポプラの樹 石川聰
ミルハウザーの夜だつた Nichtraucherchen
にくらしいネジを夜空に打ち上げる 佐井杜有
しゃぼん玉ぼくのなかでも遊んでよ ひいらぎ
円滑に円すべり落ち 笛地静恵

柿落ち葉実はフリーザーにひしめきて Chronic
やつてきたオリオン目立つこの幕が なぞねい
脱衣所は地獄への門 塩の司厨長

留守番の仔狸がゐる等高線 美蟲角
今夜だけ外をのんびり歩きたい 涼

満月を言い訳にして電話したい 気まぐれさん
終わらぬ空にイヤホン放る アリタ別館

夭折の君の宛名はオリオン座 akao

雨雪が降つても君はまだ来ない 水彩

桜餅と名付けるにはまだ早い 季川詩音
くちびるの蠕動あやめ冬牡丹 砂原妙々

分かつ足跡再び交じるまで 天然石アクセサリー kiki's

人も恋人猫も恋人午睡せり まどけい

買いません 黒の金曜だからこそ 霧雨魔理沙

蕎麦も打ちますよ蒙古斑ですけど ぼーけろいど
会うたびにをどんどん好きになつて冬 東こころ

記憶まだしてないパスワードを弄るパスワード

松本清展

*

不備あつて豆腐の角がクレムリン 月波与生

◆ 短歌

漫画には下手ウマがあり人にもそう 凸凹の面で歩いてゆ
くよ 水の眠り

ぬくもりが煩わしくてレトルトのカレーを冷めたお米にかける 非常口ドット

駄目だね 小さく笑つたあなたの口許から「ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、青海波

七十代男女が上がるちょうどいい喫茶リストを登録してゐる

胡椒 黒

半角の 文字が流れる 青い部屋 泳げないから 膝を抱

える モロッコひろみ

なにもかも放り去りたい夜があり尾崎豊が蠢いてゐる 砂のような

『しにたい』を 細かく分解 いたします 『さむい』になつた? よし風呂入る 半岬チロ

*

ぜんぶ夢だつたと思うことにする そうじやなくとも、そういうことにする 安藤 蜜豆

3人で盛り上がりつてゐる席があり 10人以上で静かな席 銀蔵

駅前のスープの名は一年ごと名前が変わり落ち着きがなく砂のような

朽ちていくその姿さえ美しい あなたのように死んでいきたい 何となく短歌

理想とは瓦礫の上の万年筆冬の來訪予感してゐる 『理想』

あづみのマルコ

夜に溶け取り除けない君の愛 わたしたちずっと朝を拒んだ 夜ボエム寄る?

人付き合いも納豆。バスターの正解も 分からないままもうすぐ三十 藤岡あや

いつかこのままならなきの皺寄せが全部まとめて来ません ように えみ

◆詩・短文
投稿なし

◆作品評から